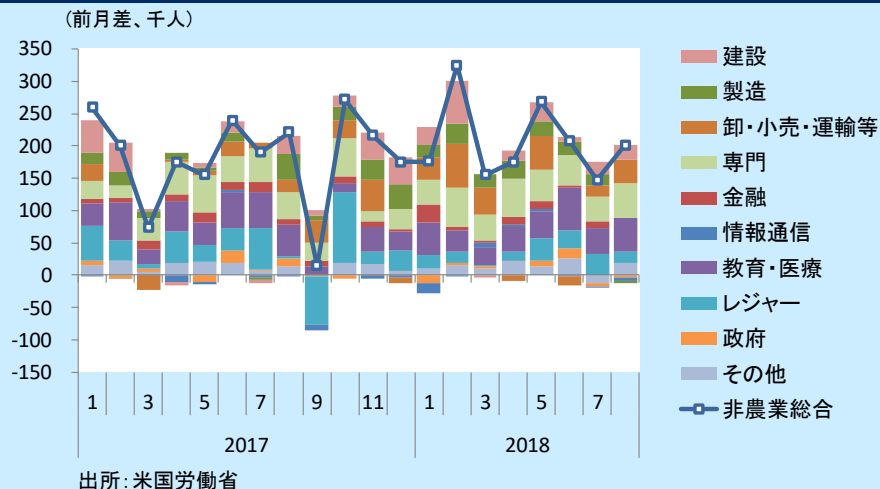


# 米国：雇用統計（2018年8月）

## —平均賃金は2009年6月以来の高い伸び—

*MRI Daily Economic Points*  
September 11, 2018

図表1 非農業部門雇用者数

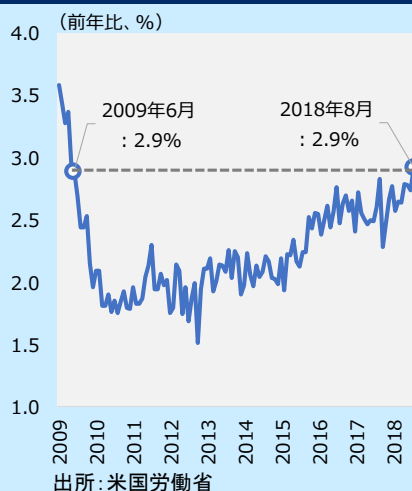


評価ポイント

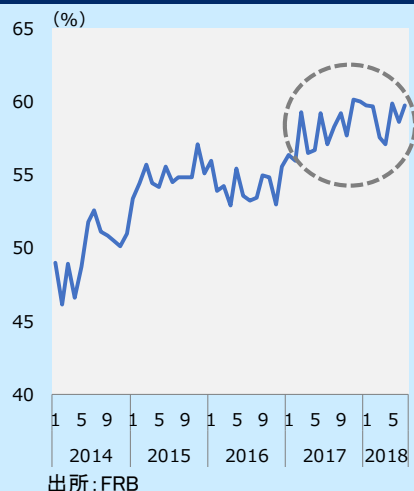
### 今回の結果

- 18年8月の非農業部門雇用者数は、前月差+20.1万人増と前月(同+14.7万人増)から伸びが加速した。
- 内訳をみると、専門サービス(同+5.3万人)や教育・医療(同+5.3万人)で雇用者数が大きく増加し、全体を押し上げた。
- 8月の失業率は、3.9%と前月から変更なし。労働参加率は、62.7%と前月(62.9%)からわずかに低下した。
- 時間当たり平均賃金は、前年比+2.9%と前月(同+2.7%)から伸びが加速した。2009年6月以来の高い伸びであった(図表2)。

図表2 平均賃金の伸び



図表3 失業者が職を見つけられる確率



### 基調判断と今後の流れ

- 良好な雇用・所得環境が続いている。失業率が4%前後と極めて低い水準で推移するなか、賃金も前年比+2%台後半と、比較的高い水準での伸びを維持している。
- 先行きも、雇用・所得環境は堅調な推移を続けると見込む。失業者が今後3か月間に次の仕事を見つけられる確率は、高水準で推移しており(図表3)、今後も雇用者数の安定的な増加が見込まれる。
- 下振れリスクは、トランプ政権の保護主義的な動きと、それに対する各国の対抗措置である。今後、①貿易相手国の報復関税などにより、輸出が減少する場合や、②輸入関税の引き上げが、国内物価の上昇につながり、企業活動や消費を抑制する場合などには、企業の雇用スタンスが慎重化し、雇用環境に悪影響が及ぶうる。